

# 学校教育努力点

テーマ

仲間と学びを深め合う児童の育成  
～学んだことをまとめ、振り返る活動に重点を置いて～

## 1. はじめに

児童一人一人が、笑顔で楽しく学校生活を送る姿、学習や様々な活動に、瞳を輝かせて取り組む姿、これらが、本校で目指す児童の姿である。本校は、一昨年度から「仲間と学びを深め合う児童」をテーマとし、課題解決的な学習過程をモデルとした「なかまなビジョン」を踏まえて、3年計画で実践に取り組んでいる。

1年次となった一昨年度は、学習の導入段階で「問題意識を生み出す活動」を重点とした。その結果、児童は「～について考えよう」と学習単元のゴールに向けての学習の見通しをもち、できるようにしたいことをつかんだり、「なぜ～なのだろうか」と自らが学習で明らかにしたいと思う問いをもったりすることができるようになった。

2年次となった昨年度は、学習の展開段階において、児童が自分の考えをもち、仲間と対話する「追究する活動」を重点とした。具体的には、学習課題を児童一人一人が資料を活用して調べたり、自分の考えの根拠や理由となるものをしっかりと見つめたりすることによって、自分の考えをもつことができるようにした。その上で、仲間と対話する活動を取り入れながら学習を深めてきた。この結果、教師が答えを説明するのではなく、子ども同士が話し合うことによって、見方や考えを働かせ、答えを導こうとする態度を育成することができた。

3年次となる今年度は、「学んだことをまとめ、振り返る活動」に重点を置く。展開の段階で話し合っ深めた事柄を、どのような表現方法でまとめていけばよいのかということについて、実践者が研究を進めていくようにする。その場合、話す・聞くなどの言語的な手段を用いたり、書くことを用いた記述的な活動をしたりすることがまず挙げられる。その他にも、絵や図で表す、寸劇で表すなど、様々な表現方法も柔軟に取り入れながら、単元を組み立てていくことも想定できる。また、「まとめる活動」だけで単元の学習を終わらせずに、「さらに～をしてみたらどうなるだろう」「よりよい方法はあるのだろうか」など、まとめたことを生かして学習を振り返り、次の学びにつながる気付きや疑問がもてるような単元構成にすることも、昨今の教育課題を考えると重要な視点であると言える。

以上のような点を踏まえながら、各学年実践する教科を設定し、仲間と対話して得られた考えや答えを、まとめ、振り返る活動を重点とした実践研究を行っていくこととする。